シラフシロオビナミシャク

「この蛾はなに?」と三橋さんに右のデジカメの画像を見せられての質問でした。白黒ぶち模様の美しい蛾でした。蝶ではないことは確かでした。これほどの美装の蝶ならば蝶トランプに採用しないわけにはまいりません。筆者にして初めて見る代物でした。三橋さん自身も蝶ではなく蛾であると認識されていました。

撮影場所は澄川森林の苗畑辺り、出会いの日時は 2017 年 6 月 5 日 9 時 9 分とのこと。

帰宅後すぐに図鑑をめくりました。模様が模様だけにずくに見つかりました。シラフシロオビナミシャクといいます。やたらと長ったらしい名前です。シラフとは白色の斑のこと、シロオビとは白色の帯模様のこと、ナミシャクとはシャクガ科ナミシャク亜科に分類されていることを示すものでした。ナミ(並み)とはそこらじゅうにあるとの感じで、たしかにこの科に括られる蛾の数が多いらしいのですが、この仲間たちの前翅に波状線があるものが多いことでのナミ(波)とのこと。筆者は両方の意味がこめられていると感じるのであります。

ネットを検索して食草はアジサイ科のヤマアジサイとの記述がありましたが、ヤマアジサイは北海道には自生しないようです。また私の使っている「北海道樹木図鑑」(亜璃西社)ではアジサイ科はありませんで、エゾアジサイはユキノシタ科に括られています。澄川に自生するユキノシタ科の植物はツルアジサイとノリウツギの 2 種類のみです。おそらくこのどちらかで育ったのでありましょう。こんな美しい蛾の為には蔓退治でツルアジサイも退治したことがありますが、これからは保存することにしたいと考える次第であります。この会の設立初期に北大苫小牧研究林での研修で往時の石城林長がツルアジサイは樹幹に巻き付くのではなく、へばりつくだけで悪さはあまりしない。花は美しいので森の美観に貢献している。との話を記憶しております。

幼虫の姿を追求しましたが、ネットでも我が家の「毛虫図鑑」でも見つかりません。

北海道のこの蛾は「北海道亜種」として括られています。分布はほぼ日本全国のようです。小さい蛾で開長 3 ㌢そこそこ。その所為でしょう、筆者にして過去に出会ったことはありません。どれが本種かわからないほど各地で亜種あつかいされているのですが、模様の個体差が激しいのです。その幾つかをご覧ください。